



引き続き、黒星病・うどんこ病等の重要防除期間です。一定の間隔で薬剤散布を進め、果実感染防止努めてください。尚、うどんこ病被害枝が市内全域で散見されます。うどんこ病は高温・乾燥状態下において感染拡大します。被害枝を見つけ次第除去してください。また、ケムシ類・アブラムシ類等の被害が目立つ場合は、今回散布を早める等の対策を講じてください。

## りんご



### ◆ 5 月中下旬の薬剤散布（前回散布より 12 日後）

散布時期：5/15～22 頃 \*注意事項①、②参照

散布薬剤：水 100 リットル

展着剤 10 ml

フルーツセイバー 50 ml（前日、3 回）

モスピラン顆粒水溶剤 25 g（前日、3 回）

スイカル 100 g（カルシウム剤）

対象病害虫：黒星病・黒点病・うどんこ病・赤星病

アブラムシ類・リンゴワタムシ・カメムシ類・カイガラムシ類・（ケムシ類）

10 アール当り散布量：500 リットル

◆ 散布日：5 月 日

◆ 散布量： リットル

\*注意事項③参照

### 【注意事項】 \*必ずお読みください。

- ① 散布時期は目安です。気象条件や病害虫発生状況等を考慮して散布時期を決定してください。
- ② 6 月末まではサビの発生しやすい時期です。高温時の散布は避けてください。
- ③ **フルーツセイバーに代えて、アントラコール顆粒水和剤 500 倍（45 日、4 回）でもよい。**
- ④ スイカル等のカルシウム剤は、ビターピット・果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果がある。今回から 5～6 回連続して散布する。
- ⑤ スイカルに代えて、ストピットⅡの 500 倍を使用してもよい。ストピットⅡは、カルシウム成分の他に有機皮膜補助剤が混合されており、カルシウム補給と併せて幼果期の果面保護効果がある。

◆ 次回（6 月上旬）薬剤散布予定：6/1～5

梅雨前の炭そ病・褐斑病等予防及びシンクイムシ類・カイガラムシ類等対象の薬剤散布です。

◆ 裏面もお読みください。（技術対策等）

## りんご生育状況と今後の技術対策について

◆ ふじ生育状況調査（調査地点：平岡）＊満開時点：前年比－6日

年度	発芽	展葉	開花	満開
H27	3/31	4/8	4/27	4/29
<b>H28</b>	<b>3/31</b>	<b>4/5</b>	<b>4/21</b>	<b>4/23</b>

参考：小田中  
開花：4/20  
満開：4/23

参考：岩井沖  
開花：4/22  
満開：4/24



### ◆ 結実後の技術対策

- ① 満開後約3週間位（5/15過ぎ）で結実量や幼果のサビ等が十分確認できます。生育の進んでいる本年は、5月20日頃を目安に予備摘果作業に入ってください。
- ② ふじで結実量が極端に不足している場合は、予備摘果時期を遅らせ、変形果やサビ果（果面の50%位まで）等の素質の悪い果実でも残し、樹勢の安定化を図ってください。
- ③ 低温被害が大きい園（地帯）では、側果を利用できるふじから優先的に予備摘果を進めてください。
- ④ つがるや秋映等の品種で、低温被害が見られる場合は、極端な一輪摘果を控え、まずは結実状況やサビ果の発生状況を確認してください。また、中心果の欠落が著しい場合は、素質の良い側果を利用して生産量の確保に努めてください。
- ⑤ 結実不良園では、早期の徒長枝切除は当面控えてください。また、梅雨明け頃に過繁茂状態になる場合は、適宜管理作業を進めてください。
- ⑥ 養分転換期の5月中旬になっても、展葉枚数が少なく、葉色が悪く小さい葉が多く見られる場合は、追肥や葉面散布を実施してください。（詳細は下記参照）

### ◆ マイマイガ（ケムシ類）対策について

街路灯や住宅近くの明るい果樹園は、越冬卵塊が多く特に注意が必要です。5月中旬になると、山林等で大型化した中齢幼虫が果樹園に盛んに移入し摂食量も多いため短期間に多大な被害をもたらします。その場合は速効的かつ残効の長い合成ピレスロイド剤を使用してください。（参考）5月中下旬（幼虫移入期）の防除薬剤

時期	薬剤名	倍率
5月中下旬～6月 （幼虫移入期）	サムコルフロアブル 10（ジアミド系）	2,500～5,000
	フェニックスフロアブル（ジアミド系）	4,000～6,000
	ディアナ WDG（スピノシン系）	5,000～10,000
	モスピラン顆粒水溶剤（ネオニコチノイド系）	2,000～4,000
	バリアード顆粒水和剤（ネオニコチノイド系）	2,000～4,000
	アディオンフロアブル（合成ピレスロイド系）	1,500
	アーデントフロアブル（合成ピレスロイド系）	2,000

### ◆ 5月の葉面散布資材使用例

下表の資材は定期散布農薬と混用可能です。葉色が薄い、苦土欠乏症状等が見られる場合は各資材を選択使用してください。

資材名	保証成分量	目的	倍率	使用時期	規格	100ℓ 散布 単価
ようゆう 葉友	N-5%、P-0.1%、K-0.3%	光合成促進	2,000倍	落果後～収穫直前	1ℓ	201円
					4ℓ	193円
ビビッドグリーン	N-7%、P-6%、K-4%、Mg-1%	葉色、健全葉維持	500倍	落果後～6月中旬頃	1.2kg	233円
液体硫酸マンガン	水溶性マンガン 13.5%	マンガン欠乏対策	200倍	落果後～6月中旬頃	1kg	511円
グリーンデイズ	Mg-16%、Mn-9%、B-2.5%	苦土欠乏対策 微量要素補給	1,000倍	落果後～6月中旬	1kg	149円

\*N-窒素、P-リン酸、K-カリ、Mg-苦土、Mn-マンガン、B-ホウ素